

平成 26 年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立倉吉西高等学校

学校長 松本 清治

評価日	平成 27 年 3 月 17 日 (火)	
評 価 ・ 提 言	学校の所見・改善策等	
<p><b>1. 今年度の自己評価について</b></p> <p>(1) 重点目標の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価としては概ね妥当であるが、目標の達成状況から判断して、「A」評価を付けてもよい項目があるのではないかと。</li> <li>・次年度への意欲喚起のためにも、「A」評価に該当するものがあれば、思い切って「A」評価とした方がよい。</li> <li>・教職員の指導実感としては、まだ不十分という感覚があるかもしれないが、生徒の変容状況が評価対象であるので、評価すべきものは評価した方がよい。</li> <li>・長年西高に関わってきているが、挨拶、服装は本当に良くなっている。「A」評価でよい。</li> <li>・チャレンジグループ活動についても、取組の開始以来、後退することなく前進、改善され、生徒に大きな効果をもたらしている。「A」評価でよい。</li> <li>・委員の意見を総合して「良き生活習慣の確立」の評価項目の評価を「A」とする。(全員合意)</li> <li>・ボランティア活動にも西高の生徒はよく頑張っており、その姿勢もすばらしい。評価できる。</li> <li>・「人間力を高める生徒指導」の評価項目の「キャリア教育の充実」の評価項目の評価を「A」とする。(全員合意)</li> <li>・学校全体として、生徒の問題行動も少ないのではないかと。</li> <li>・今の若者の中には、有名大学を出ても、就職しようとする若者がいる。親離れ、子離れできていないケースが多い。</li> <li>・親が子どもに関わりすぎのところがある。学校としてキャリア教育をどのように深めるかが大切であり、その意味でも多くの人と触れあう機会をたくさん持つことが重要。</li> </ul> <p>(2) 説明・公表について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	<p>→確かに成果の出ている評価項目もある。ただ、毎年、10人前後の人事異動がある中で、教職員の意識に定着、継続性、積み重ねといった点で、「もう少し」という感覚があるのかもしれない。教職員のそうした実感を含めて「B」評価としている。</p> <p>→チャレンジグループ活動は確かに充実してきている。今後も学校の柱として重視したい。</p> <p>→ボランティアにも多く参加し、本当によく頑張っている感あり。</p> <p>→確かに少ないが、精神的に幼稚な生徒は年々増えている。本校だけでなく、全国的な傾向かもしれない。</p>	

## 2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について

- ・シンガポール研修への参加者が少ないのは何故か。海外体験は、自分の視野を広げるよい機会。研修参加者が後輩にその状況を伝える工夫をしてほしい。
- ・シンガポール研修に参加した生徒が、その後、どのように変容したかをリサーチして後輩に伝えることも大切。
- ・研修先がシンガポールでは生徒への刺激が少ないのではないかと、訪問先を再検討する時期かもしれない。例えば台湾など。
- ・海外研修で、同年代の人々とコミュニケーションをとるような機会を設けるとよい。

→費用が高額であることが最大の理由。  
→研修に参加したステージ2の生徒が、ステージ1の生徒に研修報告を行っている。  
→3月の保護者説明会では、研修に参加した生徒の変容も伝えている。  
→得ることの多い海外研修であり、今後も多くの生徒が参加するよう働きかけていきたい。

## 3. 取組改善のための提言

- ・授業改革で、学校で学んだことを社会問題と結びつけることは大切。今の子どもたちの弱い部分である。物事を関連づけて考えることを育てて欲しい。
- ・今の中学生も同様であり、自分の生活と学校で学んだことを結びつけることができない中学生が多い。
- ・選挙権が18歳からになることが検討されているが、選挙に対しての若者の意識が低い。
- ・政治や社会問題に関する意識を持たせることが重要。
- ・教科書「を」教えるのではなく、教科書「で」教えることが大切。
- ・ボランティア等も含めて、自分と社会との結びつきを考えさせたい。
- ・次年度に向けて、家庭学習時間を確保することに全力を傾けてほしい。学力、学習が充実すれば、学校の活力が益々高まる。

→学校としても最も大切なポイントであると考えている。  
→学校で学んだことを社会と結びつけることができるような指導を今後も重視していきたい。  
  
→今後も継続して取り組むこととする。